



田園風景（上内川地内）

なっている。市内米作農家の実態は、60kgあたり、平成18年度で1千100円弱、平成19年度で2千700円強のマイナスとなり、いずれも生産コストが販売価格を上回っている。米は国内では生産量が消費量を上回っており、自給率の低い穀物価格を、価格面で大幅に下支えするなど、国の食料政策を思い切った転換することも必要な時期にきている。

消防広域化では  
消防力が低下するが

(問) 現在の県内36の消防本部を7ブロックに統合する県の「消防広域化計画」では、現在でも不足している消防自動



車や消防職員を充足することにはならず、消防力が低下することになる。火災で今求められている対応は、いかに初期火災でくい止められるかどうか、救急事故であればいかに現場に早く到着し救助できるかが、どこの消防でも一番求められている。広域化では基準が変わるだけで消防力の充足率が上がる仕組みになっている。そこをどう検討して広域化を積極的に推進すると判断したのか。

(答)市長 消防力の基準そのものが、それでいいのかもしれないが、それが必要。今消防行政で取り組んでいるのは、いかに火災を出さないかが課題であり、そのことの方が大事。

武蔵野線

こ道橋の

歩道拡幅を

佐藤 清治

(問) 3・3・4号線と武蔵野線交差点のこ道橋（ずい道）工事は平成17年12月から始まり、平成21年10月完成予定で行われている。

歩道については新しい規格では4mになっているが、こ道橋の歩道は旧規格の3mで設計されている。

一度、建設されてしまえばこれを拡幅することはできない。

交通安全上からも4mに拡幅した方がよいのではないかと。県に要請すべきではないか。

(答)都市建設部長 当道路については規定に照らし合わせますと4m以上の幅員となりますが、こ道橋工事は昭和45年度に工事が着手している三郷―吉川線の事業として実施しておりますので、歩道は3mで適合しているところでございます。

このようなことから県に要請することは難しくご理解をたまわりたいと思います。

子どもたちの安全を守る  
取り組みの強化を

(問) 中国四川省の大地震では学校の校舎などの倒壊によって多くの子どもたちが犠牲になった。

日本共産党市議団ではこのことを受け、市長と教育長に5月27日、学校施設の耐震化のさらなる促進、保育園・幼稚園などの耐震状況についての調査と実態の把握、今後の取り組みについて申し入れを行った。市及び教育委員会としての対応について伺います。

(答)市長 保育所については、民間保育園も含め調査し対策を検討していきます。

(答)教育長 国が中国四川省の大地震を踏まえて耐震化を優先して実施することや補助金等の改正がされましたので、国・県から通知があり次第、事業の見直しや前倒し等が可能なか十分検討してまいります。

車椅子でも安心

駅タクシー乗場、

中野地内歩道

バリアフリー

小林 昭子

(問) 吉川駅北口タクシー乗り場は、改札口からの勾配が急で車椅子では不安との声が出されている。改善を求める。

(答)都市建設部長 駅前広場は勾配など、バリアフリーに配慮されていない部分があり、県身体障害者相談員、車椅子利用者、J&Rと改善方法を考えていく。

(問) 中野202番地先の信号機北側歩道の段差を解消して車椅子でも通行できるように改修を。

(答)都市建設部長 今年度段差解消の工事を発注した。

環境保全協定締結のあり方

(問) 小松川工業専用地域での事業所参入に関して、市は関係自治会が、まだ問題ありとしている途中で事業所と環境保全協定を締結した。この様なやり方では住民の理解は得